

平成26年度 障害者スポーツ指導者協議会 九州ブロック研修会 実 施 報 告 書

1. 目 的

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会の公認障害者スポーツ指導者が、その資質向上及び情報交換により緊密な連携を図ることによって、障害者スポーツ・レクリエーションの振興・発展に貢献することを目的とする。

2. 主 催：障害者スポーツ指導者協議会 九州ブロック
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会

3. 主 管：宮崎県障害者スポーツ指導者協議会

4. 後 援：宮崎県障害者スポーツ協会

5. 日 時：平成27年2月7日（土） 13：10～17：00
2月8日（日） 9：00～12：00

6. 会 場：宮崎県福祉総合センター内 人材研修館・本館

7. 研 修 内 容：別記報告と兼ねる。

8. 参 加 者：九州ブロック会員 111名
(宮崎県以外の会員：48名、宮崎県の会員：63名)

9. 報 告

★ 研修会の内容について

(1) 九州ブロック各専門部会活動報告

「情報部会」、「クラス分け部会」、「研修・研究部会」、「指導・競技部会」の各専門部会長（専門部会長欠席のところは九州事務局が代行）による本年度の活動報告及び来年度の事業計画等が報告された。

(2) 講演

宮崎県を代表して宮崎県障害者スポーツ指導者協議会副会長の奥松美恵子氏に「宮崎の知的障がい者たちの珍道中」（地方から目指すパラリンピック）と題してスピーチをしていただいた。本人のこれまでの経験に基づく指導の状況や課題などを踏まえながら、スライド（情報）を使って、質問をふんだんに織り込んだ楽しい雰囲気の講演であった。

指導者として、知的障がいのある選手たちとの関わりを振り返り、いろいろな課題にも触れる話であったが、ユニークな話しぶりで時間の経過を感じさせない講演であった。

(3) 特別講演

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会強化部長・日本パラリンピック委員会事務局長の中森邦男先生に「今後の東京パラリンピックに向かっての活動について」と題して特別講演をいただいた。

近年のわが国のスポーツ・体育の流れやパラリンピックの発展の説明から始まり、日本の障がい者スポーツが文部科学省に移管されてどのような動きがあるのかなど細かな説明がなされた。各競技団体に対する強化支援事業の実施イメージなど具体的な話もされ、日本もようやくパラリンピックに向けて力を入れる段階になってきたこと。そして、東京2020パラリンピックに向けて児童・生徒の発掘・指導・強化のあり方や都道府県・市町村・県協会・県指



導者協議会の役割、最終段階の具体目標（メダルの数）を示した代表選手の強化環境など、目指していく具体的な取組状況が把握できるお話で大変有意義なものであった。

(4) ディスカッション

「今後のパラリンピックに向けて ～各県の取組について～」としてディスカッションを行う予定であったが、十分な時間を確保できない状況となったため各県の取組を発表していただいた。

沖縄県（運天）から始まり、鹿児島県（前田）・熊本県（辻）・大分県（池部）・佐賀県（土井）・福岡県（山野）・長崎県（長井）・宮崎県（堀之内）の発表で各県の状況を知ることができた。どの県にも思うような取組ができていない現実や実態があり、今後の取組の予定なども説明があった。最後にコーディネーターの堀川副会長が全体をまとめ、今後の活動の確認を行った。



(5) 分科会

① 全国障害者スポーツ大会クラス分け：研修・演習・・・参加者27名

竹内直人氏（九州ブロッククラス分け部会：鹿児島県）と東利雄氏（九州ブロッククラス分け部会長：熊本県）のお二人を講師として研修を行った。竹内氏がプレゼンテーションで資料・情報を示しながら具体的な説明を丁寧にしていただき、東氏の補足説明等も加わり大変分かりやすい内容であった。



後半は、具体的な障害の状況を資料とVTRで確認して障害区分の判定をしていく演習を行った。グループ別の協議や結果発表に講師が具体的に解説を加える方法がとられ、区分判定が難しい事例への対応の研修が大変参考になった。

② 発達障害児へのスポーツ指導：講話・・・参加者30名

講師に沖縄県のチットチャット・スポーツ塾の栄孝之先生をお願いし、発達障がい児の具体的なスポーツ指導のお話をしていただいた。「ひとときわ大きい個性」として捉えられる発達障がい児の特性を知ることから始まり、事例を踏まえながら発達障害についての具体的な説明がなされた。VTRで子どもたちの様子や指導で実践されていることの紹介、指導のポイントなどが示された。



実際の指導において現場で実践されている具体的なポイント（3つのチットチャットスタイル）をお話された。その中で「とことん非日常にこだわり特別な時間と空間を提供し、子どもたちを主役として輝けるような仕掛けをしていきます。運動はシンプルに自分の『できた感』が体感できる最高のツールです。」と強調された。

③ 実技・・・参加者44名

実技Ⅰ：スローエアロビック 講師：黒木ひろみ・中武久美子・松永須美子

実技Ⅱ：ボッチャ 講師：小澤壽賀穂・金崎明子（いずれも宮崎県）

前半行われたスローエアロビックでは、基本的な動き（ゆっくりスローで動く単純な動きの繰り返し）から始まり、いろいろなテンポ（曲）や動きを取り入れた練習へと進んでいった。参加者はいずれも楽しそうに気持ちの良い汗をかいていた。



後半実施のボッチャは競技の概要やルール・審判要領等の説明があった後に、二つのコートに分かれて、競技と審判の実技体験を行った。初めて経験する参加者もいたが、徐々に慣れていき和気藹々のなかで競技を楽しんでいた。



10. その他、所感

一日目の研修が終了した後の懇親会には、宮崎県外37名、宮崎県内47名が参加し各テーブルを中心に情報交換が行われ、また、宮崎県の出し物として「ベリーダンス」が披露され大変盛り上がった。宮崎県ならではの「おもてなし」を感じてもらえればと準備をしたので、参加された方々に宮崎の良さを少しでも受け留めてもらえれば幸いである。

今回の研修会に、宮崎県内外から数多くの会員の方々にご参加いただき、実りあるものにする事ができました。宮崎大会開催に当たり、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会をはじめ九州ブロック事務局のご指導ご支援に感謝申し上げます。